

## 令和5年度 岡崎盲学校いじめ防止の取組評価について（報告）

### 1 取組内容と方法

- (1) 学校教育計画の重点目標に、「いじめをしない・見逃さない校内環境の醸成及び、いじめや不登校のない学校作りに努める。」といじめに関する取組目標をたて、実施する。
  - ・「いじめ不登校等対策委員会」を設置し、事案の解明と解決に向けての主導的な立場をとる。
  - ・委員会を中心に、情報の伝達・共有を迅速かつ適切に行えるよう対応する。
- (2) 学級ごとに、いじめ防止の観点で取組目標を設定し、実施する。学級経営案にも明記する。未然防止、早期対応、情報共有を日頃から意識的に実践する。
- (3) 生活アンケートを年間で3回実施し、児童生徒の状態の把握に努め、必要に応じて指導に反映できるようにする。
  - ・原則として「小学部」「中学部」「高等部普通科」「高等部保健医療科、専攻科医療科」の4種類のアンケートで行い幼稚部及び各部の重複障害学級は幼児児童生徒の実態を踏まえて行う。
  - ・アンケートの記載内容については、必要に応じて適切な対応を行う。

### 2 取組評価の方法

- (1) 生活アンケートの集計や記載内容から評価をする。
  - ・計上される数や記載内容から、全体の傾向を読み取り、文章表記で表す。
- (2) 学級ごとの取組目標に対する反省をもとに評価をする。
  - ・学級経営案の記載事項や担任に対する聴取から、学部の傾向や全校の傾向を考察し、文章表記で表す。
- (3) 職員対象アンケートの集計や記載内容から評価をする。
  - ・記載内容から取組に対する理解度や満足度を考察し、文章表記で表す。

### 3 評価

#### (1) 生活アンケートから

##### 【小学部】

小さなことでも学校及び寮で情報を共有し、対処することに努めた。担任を中心に相手の気持ちや正しい言葉遣いを考える機会を適宜設け、クラスの友達と仲良く過ごせる時間を設定できた。好ましくない発言や行動があった場合は、クラス内での友達との関係がこわれないように双方の気持ちを聞くようにして、よい友達関係が続くように努めた。

##### 【中学部】

アンケート結果から、人間関係に悩んでいる生徒がいることが分かったが、暴言を吐かれるなどの明確な危害を加えられて困っている生徒は見られなかった。担任を中心に、悩んでいる生徒の話を聞いたり相談に乗ったりしながら様子を観察し、生徒同士の関係を保てるように努めた。「責任感」や「やりがい」について、生徒会役員や毎回同じ生徒が「感じる」と回答する傾向がある。日々、責任感をもって一生懸命に取り組んでいる生徒は多く見られるため、生徒自身が実感できるような指導に努めたい。

### 【高等部】

アンケート結果から、ほとんどの生徒が「学校生活は楽しい。」と回答していた。また、責任感ややりがいを感じながら学校生活を送ることができている生徒が多くいた。悩みがある生徒は少数いたが、先生や周りの人に相談することができ、一人で抱え込んでいる様子は見受けられなかった。今後はアンケートで挙げた点は担任を通して確認するとともに、アンケートで挙がらない点についても日常生活の様子を観察して把握できるようにしたい。

### 【保専】

年間を通して、大きな問題のある回答は無かった。気持ちに浮き沈みのある生徒はいるが、教師や友達に悩みを話すなどして、気持ちを落ち着かせようとしている。

## (2) 学級の取組評価から

「相手の気持ちを考える」、「正しい言葉遣いをする」、「他者を尊重する」などをテーマに、発達段階に応じた目標設定をし、いじめ防止に取り組むことができた。幼小学部においては、教師が相手の気持ちを思いやった言動を示したり、友達との正しい関わり方を一緒に考えたりすることで、友達と仲良く過ごせる場面が増えてきた。中学部や高等部では、自分と他者との考え方の違いを認め合ったり、感謝の言葉を伝えたりすることができた。また、自分の言葉や行動で気持ちを伝えることが難しい生徒については、保護者と連携しながら、生徒の様子を見守るように努めた。

## (3) 職員アンケートから

いじめ防止の観点から、「児童生徒の様子は特に問題ない」とする回答がほとんどであった。

生活アンケートの質問項目に関して、適切な質問項目が設定されているのかという意見があった。そこで、来年度、生活アンケートを実施する前に、質問項目を検討したい。